

1999年
2月20日

同推くん

第2号

地区市民センター内事務局 (311・3284)

◇発行◇

海蔵地区同和教育
推進協議会

第7回「人権を考える集い」をふりかえって

人権を考える集い実行委員会

今回は、過去6回にわたって取り上げてきました内容（部落、障害者、女性、外国人、高齢者、いじめなど、現存する主な差別）の集大成ということで、人権の何であるかを理屈でなしに、感覚的に身につけられたらという思いから「人権コンサート」を催しました。

酔人舎（山手中・伊藤教頭先生の主催される3名の先生方によるグループ）の素晴らしい演奏と語りにより、明るく楽しい雰囲気の中で、参加された皆様に多くの感動を与えて下さいました。

改めて酔人舎の先生方にお礼を申し上げます。

◆私は直接、同和問題とかかわったことがないと思っていたがあらゆる場面で同和・人権など差別にかかわっているということをとても感じました。

20歳代女性

◆初めて参加させていただきました。今まで愛知県にいて人権について深く考えたこと、そういう場がなかった。今日、参加して私の中で本当は不合理なことにハッと気付かされました。「手紙」のような差別が今もあるのですか。

20歳代女性



人権コンサートに参加して

～声と感想～

◆二人の仲の良かった女性を思い出しました。二人共、部落出身の男性とお付き合いをしていました。二人共、男性の家のことは内緒で一人は反対を押しきり、海外で式を挙げ、もう一人の女性は親元にもどり、彼とは別れてしまいました。二人が幸せに暮らしていたらと祈ります。歌詞を聴いていて昔を思い出し、つらかったですけど本当に差別や偏見は、まず自分の心からなくさないと、そして自分もふくめて人を大切にやさしくなりたいと強く思うことができました。

30歳代女性

◆今日の出席は正直に言って、反強制的なものでしたが、本当に来てよかったと思います。第8回は子供を連れて、また、参加できたらいいなと思いました。

30歳代女性

あなたにとつて人権って何？

——人権啓発誌「ヒューマンライツ」から——
「おいばりさん」
白井 陽江

私は三十一年間生きてきて、自分は大変、穏やかな温厚な質だと自負しています。ところがこんな羊のような私が一転、我ながらあきれられるほどの憤りをもって爆発し、ヒグマと化す場面があります。

例えば、高校時代に私語をしていたと誤解した教師にいきなり平手で殴られた時。

例えば、役所の窓口で横柄な口調の係員に書類を投げ返された時。

例えば、勤め人時代、取引先の男性にネチネチといやらしい言葉でからかわれた時。

例えば、お金持ち自慢のご近所さんになまわりくどく見下されたとき。

それは例外なく「おいばりさん」に軽んじられたり傷つけられたりした時です。日頃心やさしい私もこのような場合、サツと全身の血の気が引き、手足はワナワナと震え、目は三角になります。たいていその時点で「おいばりさん」は「まずかったな」と急に弱気になり「いやーいやいや」などと意味不明の単語を口走り、とりつくろおうとしますが一旦ヒグマになった私はもうおさまりません。ドスのきいた声で猛然と、もしくはきっぱりと抗議したのち、きびすを返し、肩を怒らせドスドスと立ち去ります。

私にとって人権とは、人間としてこの世に生まれ、世界でたったひとつ

の心と姿と名前を持った存在であるという誇りです。この誇りを、特に社会的に逆らいにくい立場の人から一方的に軽んじられたり傷つけられたりした時、私は人権を侵されたと感じます。そして自分自身は長年他人に対してこうした失礼だけはしていないつもりでした。

ところが最近気づいてしまったのです。自分がりっぱな「おいばりさん」として人を傷つけ続けていた事を。

それは自分の子供たちに対してです。よその人に対しては決して口にした言葉の子供たちにとって逆らえない立場の私が日常的に投げかけていたのです。「王立ちの腰に手をあて」「ぐす」「役に立たない」「しつこい」等々。・ああ枚挙にいとまありません。まだ十才にもならない子供だっちゃん人間としての誇りはあるはずですが。またそれを尊重してやるべきがその子の人権意識を育む助けになるはずですが。本当にしっかりと胸にきざさんでおかなければこの先おいばりしている人たちに抗議する資格なんかないぞと自戒しつつ子育てする私です。

この文章は九八年度の委員研修会において使われた資料から抜粋して掲載しました。

□ご意見・ご感想をお寄せください□
(海蔵地区市民センター内事務局まで)

みづめてみよう わたしたちのくらし